

< 一般選抜試験 >

< 科目 > 国語

< 出題内容・形式・配点 >

大問		形式	配点	試験時間
1	現代文	記述	50	60分
2	古文		50	
合計			100	

< 出題の基本方針 >

基本的な出題形式は大問2つ。高等学校の国語学習に依拠しながら、大学入学後の学びで必要とされる程度の文章読解力の有無を測ることができるよう問題文を選定している。問題文中で問う設問については、現代文・古文とも文章全体の的確な理解、その前提となる基礎的な語彙力や読解力を問う内容としている。

現代文では、高等学校までの国語学習による基本的な知識を前提として、論理の流れをつかみ取ることができるかどうかチェックできるような問いを設けている。設問の順番についても、文章全体の流れの中で文章の読解が進むような配慮を施している。

古文では、高等学校で学習する語彙・文法・敬語などの基礎知識を前提として、文章全体の主旨や場面構成を把握できるかを問う。動作の主体・敬語表現・主語補完などの理解を確認する問を設けている。和歌を含む場合には、文章全体の流れの中で和歌の役割を読み取る力を評価する。

< 学習のポイント >

- 国語では文章全体の大意や論旨を把握する力が求められる。そういった力の醸成のために、各段落の構成と文章全体での位置づけを理解するよう心がけて文章を読むようにすること。
- 現代文では、論理的な文章で使われる概念や比喩的な表現の理解が必要となる。普段から積極的に論理的な文章を読む習慣をつけておくこと。また、試験には制限時間が設定されていることから、ある程度の長さの論理的な文章を短時間で理解するトレーニングが肝要である。
- 繰り返し、言い換え等で強調されている部分・語彙は作者の主張したい内容であることが多い。論旨理解のために、それらのキーワードに注目できるようになっておくこと。
- 接続詞は、段落や文の相互関係を読み取るうえで重要な役割を果たす。そのため、各接続詞の用法については的確に理解できるようになっておくこと。
- 語彙・句法・表現技法・熟語等については、普段から論理的な文章に親しみ、自分にとって初見の語句があれば辞書を活用し、調べる習慣を身につけるよう心がけてほしい。
- 漢字は、読み・書き取りとも文脈の流れの中で理解できるようにしておくこと。また、同音異義語間の区別にも注意しておくこと。
- 古文の読解では、まず文章全体の大意を把握し、段落や場面の構成を理解することが重要である。動作の主体を見失わないよう、敬語表現や主語の省略に注意しながら丁寧に読み進める習慣をつけてほしい。
- 語彙や文法については、高等学校で学習する基本的な古語の意味、活用、助動詞の用法、敬語の種類と働きなどを確実に身につけておくことが求められる。読解の前提となる基礎知識が不足していると、文章全体の理解が困難になるため、日頃から辞書を活用しながら語彙を増やすことが望ましい。
- 和歌が出題される場合には、修辞技法や形式を理解し、文章との関連を踏まえて解釈する力が必要となる。和歌単独ではなく、文章全体の流れの中で意味を捉えるよう心がけてほしい。